



若手時代の習得が要！ 理論的・客観的思考力

株式会社日本マネジメント協会 専任講師

石川 将平氏

プロフィール

1980年大阪府生まれ。2003年龍谷大学法学部卒業後、株式会社経営教育センターに入社し、講師・営業に従事。その後、株式会社タナベ経営、日本ビズアップ株式会社を経て、2010年にM&S設立し、現在に至る。2018年日本マネジメント協会（中部）専任講師に就任。

「ビジネスでの『理論的・客観的思考力』は重要だとされながら、実際に学んだり指摘を受ける機会が減少に傾いていますね。はい。ほとんどのの方がビジネスの実践上で悩み、失敗しながら身につけざるを得ないものになってきていると思います。しかし、この思考ができていないと、決めつけ・思い込みに偏った考えや発言をしてしまいますし、主観に重点を置いてしまうため、人の気持ちを汲み取ることもできなくなります。意見や発言にも説得力が乏しくなりすね。すると、人間関係がうまく

いかなくなったり、社内外の関係者をうまく説得できないなどのコミュニケーション上の問題が顕著することになります。仕事を進める上での目的達成のプロセスが不明確になったり、本質的な問題へのアプローチに支障を来し、課題解決がなかなか進まなかったりもします。あまり意識されることではありませんが、**理論的・客観的な物事の捉え方・思考法は、ビジネス上のコミュニケーションや仕事の進め方の根幹を支えるものなのです。**具体的には次のようなお悩みの改善に役立てることができそうです。いずれもよくお寄せいただくお悩みです。

1. 同じ問題が繰り返し発生する
2. 会議や社内でお互い交わされる議論内容が浅く、その時間の生産性が低い
3. 話が長い割には何を言いたいのかよく分からず、理解するのに時間がかかる

1については、問題発生の本質的な原因を発見できておらず、表面的に対策を打ってしまいうことで課題が残ったままになり、同じ問題が繰り返されている場合があります。「何が解決

すれば、小さきさまざまな問題が解決するのかわ」を明らかにして、複数の仮説を検証し、決定づけて対策を検討することが必要で、このプロセスに理論的思考が役立つわけですね。

2については、1と同様に問題発生の本質的な原因を検証し、対策を講じていきます。一方で、問題解決に向けた議論の論理的展開の先にまず何について議論するのか、テーマを明確にしておくことが重要です。議論の際、目に見えるところに書いておいてもいいですね。議論内容が浅くなる原因として、話すべき内容から脱線していることに気づかないまま制限時間が終了し、生産性の低い時間を過ごしていることが挙げられます。ゴールを目で確認しながら議論することで、その時間の生産性は上がるのです。

3については、発言者が言いたいことを構造化できていないということが原因として挙げられます。言いたいことを構造化すると、ピラミッドの上層から下層に向かう様に、まずは結論（上層）を伝え、その根拠を支える事実など、どんどん下層に向かって結論を支える土台を伝えることを指します。場

当たりに言いたいことを言うていては、受信者はその情報量の処理（整理）が追い付かず、「：それで、何が言いたいのか？」と困惑してしまうのです。言いたいことを構造化、つまり理論的に伝えることで、発言者も受信者も頭を整理して会話することができるようになります。

「ビジネスのすべてを支える考え方だからこそ、若手のうちに意識して習慣化することが大切になりますね。」

若手のうちは、ビジネス特有の考え方やコミュニケーション方法に戸惑ったりつまづいたりすることも多く、その中で自信を失い、仕事が嫌になってしまいがちです。自分では気づきにくい「なんとなくうまくいかないこと」の原因に、思い込みやそれに基づいた仕事の進め方が含まれている場合があります。つまり、理論的・客観的思考力の不足です。

理論的・客観的思考力が身につくと、物事に対する決めつけ・思い込みが減ります。そのことで、他者の意見を尊重することができるようになるため、良好な人間関係の構築ができるようになるのです。また、思い込みが減ることで常にフラットに、

ゼロベースで物事を考えられるようになるため、突発的な問題にも対処できるようにもなります。発言にも説得力が増し、目的達成のプロセスも逸れることなく円滑に進められるようになるでしょう。

一概には言えませんが、理論的思考が浸透している企業様には、「人の話を傾ける」「業務改善活動が進んでおり、ムリムラムラがなく、仕事をしやすい環境がある」「残業時間は少ないが、生産性が高い」「社内の風通しが良く、意見を言いやすい環境ができています」等の特徴があるように感じます。理論的思考ができる方は、他者の意見をふまえて全体からモノゴトの本質にアプローチしようと思えます。そのことが、本質的な問題の発見に繋がります。円滑に進みますし、その結果として残業時間は減っていくのです。

さらに、理論的思考の浸透で職場における心理的安全性が確保されていきます。心理的安全性とは、他者の反応に怯えたり羞恥心を感じたりすることなく、

自然体の自分を曝け出すことのできる環境や雰囲気のことです。チーム員が多くの意見を出すためには、心理的安全性が不可欠であり、こうした環境をつくり、多くのチーム員が意見を出せるようになれば、モノゴトにアプローチしていく上での好循環が生まれ、組織活性にも繋がっていくのです。

こうした思考を身につけたために、任せられる仕事量が増え複雑化する前の若手の段階から、たとえば「メリットを見るならデメリットを」、「スピードを見るなら質を」という形で、モノゴトをさまざまな角度からみる癖をつけてほしいと思います。

また、経営者や先輩にあたる社員の方には、若手社員が自分で考えるようになるためのサポート（サポートシップ）を心がけていただきたいです。部下の考えが浅かったり、偏っていたりする場合には、失敗を指摘するだけでなく、「モレはないか」、「〇〇は大丈夫か」と、部下が自分の足りない部分や気づいていないことを考えるきっかけを提供

「モノゴトの見方・考え方が ビジネスの全てを支える」

供していただきたいと思えますね。

「6月のセミナーは、まさに新入社員・若手社員の理論的・客観的思考力がテーマです。」

このようなテーマのセミナーは理論ばかりを説明するという印象が強く、抵抗感を抱く方が多いのが実情です。一般的なセミナーでは、論理的思考のイロハについて既成の思考法を紹介しながら進めていくパターンが多いため、これでは難しいなどという抵抗感が出てきても無理はないと思えます。

しかし本セミナーでは、より実践的な学びになるよう、働く誰もが想像しやすいような日常の現場を想定し、特定のモノゴトに対して論理的思考を用いて考えてみた場合、そうでない場合とどう変わるのかということを一緒に考えていきます。日常をふりかえって「なるほど、そんな考え方もあったな」と、現場で実践してみようという気づきを得ていただける内容です。

「新しいこと、難しいことにチャレンジしたいけど怖くてなかなか出来ない」という悩みを抱えている方や、「相手の考え正しくに知り、良好な人間関係を構築したい」、「偏見や先入観ではなく、冷静に物事を全体から見て、

石川先生に学んでみませんか？

若手・新入社員向け 論理的思考力向上セミナー

～あなたの説得力が格段に上がり、
モノゴトが円滑に進みだす～

日時 2019年6月25日（火）
13:00～17:00

会場 OKB総研セミナールーム

セミナーのお問い合わせ・申し込みはこちらまで

株式会社OKB総研
経営コンサルティング部
本社 / TEL 0584-74-2576
e-mail : info@okb-kri.jp